

2014 年度決算説明会 質疑応答

【開催日】 2015 年 5 月 11 日（月） 13:30～15:00

【出席者】 代表取締役社長 : 小林 健
常務執行役員 CFO : 内野 州馬
執行役員 主計部長 : 増 一行
IR 部長 : 武久 裕

【質疑応答】

① 株主還元関連（自社株買い、配当等）

Q. 2014 年度フリーキャッシュ・フローが大幅な黒字となった状況下での株主還元の考え方。

- A. ● 資本の配分は、利益の成長性、財務健全性、資本効率性と、外部環境のバランスを見た上で決定する。先ず利益極大化の為の投資を最優先とした上で、ROE 改善のための打ち手の一つとして、出来る限り継続性のある株主還元を実施していく。
- 運転資金を除いたフリーキャッシュ・フローの配分を検討した結果、半分は利益を極大化するための将来的な成長投資へ、残り半分を配当と自社株買いにあてることにしたものの。

Q. 2014 年度フリーキャッシュ・フロー黒字の背景、及び 2015 年度フリーキャッシュ・フローの見通し。

- A. ● 営業収入や配当収入の積み上がりや運転資金の改善等により営業キャッシュ・フローが増加したことに加え、主に航空機関連事業における投資の回収があったこと等により、フリーキャッシュ・フローが増加したものの。
- 2015 年度は、年平均を上回るペースの新規投資が出る事も想定しており、その場合には、単年度のフリーキャッシュ・フローは赤字になる可能性もある。

Q. ROE12-15%の目標達成を考えるとさらなる還元の必要があると思うが、今後の自社株買いの考え方。

- A. ● 「経営戦略 2015」で打ち出した通り、中長期的に ROE 水準を回復させるために分子である利益の成長に加え、分母である資本の最適化を図っていく方針。

Q. 2015 年度の配当の考え方。

又、業績が 3,600 億円から上方修正された場合の業績連動部分の配当の考え方。

- A. ● 現行の配当方針の枠組みの中、2014 年度からの減配幅を最小限に抑える為に、2015 年度の業績連動部分を全額配当する方針としている。
- 業績が上方修正された場合は、投資機会の有無も見ながら、弾力的に配当性向を決定する。

② 投資計画／資産入替

Q. 成長イメージとして掲げた「2020年頃に向けたあり姿」の達成状況。

A. ● 事業規模倍増については、資源、非資源共に、概ね計画通りに進捗している。

Q. 2015年度の投資計画。

A. ● 「経営戦略 2015」で掲げた資源分野の目標である「持分生産量倍増」に向けて、既存案件の更新・拡張投資や仕掛案件収益化のための投資は、当初の計画通りに進めており、2015年度もこの計画に沿って投資する予定。非資源分野の新規投資も積極的に進める予定。

Q. 2014年度の資産入替の主な内容、及び今後の入替見通し。

A. ● 2014年度は航空機関連事業での投資の回収が順調に推移し、想定を上回るペースで資産入替が進んだ。
● 2015年度も、「経営戦略 2015」で想定した通りに入替が進む見通し。

③ 業績関連

Q. 資源分野の2015年度業績見通し。

A. ● 資源価格低迷やパートナーの戦略展開等の影響により、2014年度に資源分野で大口の減損を余儀なくされた。
● 2015年度については、現時点では大口の減損は想定していない。
● 資源価格低迷の影響等により、厳しい事業環境が続くと見込んでいる。

Q. 非資源分野の2015年度業績見通し。

A. ● 2014年度に計上した減損振戻し益の反動を除けば、増益基調を維持している。

Q. エネルギー事業グループの2015年度業績見通し。

A. ● 2014年度大口損失の反動が見込まれる一方で、油価下落により利益が減少する見込み。

Q. MDPの2015年度業績見通し。

A. ● 継続的な生産性向上とコスト削減の実施、及び豪ドル安の影響により改善する見込み。

④ その他

Q. 足元、並びに将来的な有利子負債倍率に関する考え方。

A. ● 「中期経営計画 2012」の3カ年は積極的に投資を進め負債が増加した。これを「経営戦略 2015」では、資産入替を進める事で投資の原資を創出することとしており、足元の有利子負債倍率についても、概ね計画通りに進捗している。

以 上